

開

J.S.バッハ: ソナタ ニ長調 BWV963

J.S.Bach: Sonata in D major BWV963

ベートーヴェン: 選帝侯ソナタ第2番 ヘ短調 WoO47-2

Beethoven: Kurfürstensonaten in F minor WoO47 No.2

プロコフィエフ: ピアノ・ソナタ第1番 ヘ短調 op.1

Prokofiev: Piano Sonata No.1 in F minor op.1

ブラームス: ピアノ・ソナタ第3番 ヘ短調 op.5

Brahms: Piano Sonata No.3 in F minor op.5

小菅 優 “ソナタ・シリーズ” Vol.1

Yu Kosuge “Sonata Series”

花



2023年3月23日(木) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

Thursday, March 23, 2023 at 7 p.m. Tokyo Opera City Concert Hall

料金: (全席指定) 一般¥6,000 学生¥3,000

※学生券はカジモト・イープラスのみの取扱い

好評発売中

カジモト・イープラス

050-3185-6728 オペレーター(10:00~18:00)対応

<http://kajimotoeplus.com/>

ホームページからお申込みいただけます

チケットぴあ <https://t.pia.jp> (Pコード 232-530)

e+(イープラス) <https://eplus.jp/>

東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999

主催: KAJIMOTO

協力: ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル

KAJIMOTO

Photo by Takahiro Goto

ピアノ・ソナタをテーマに、様々な時代を歩む作曲家の限らない世界に挑戦する新シリーズ

Vol.1 「開花」(初期のソナタ)

第1回は、それぞれの作曲家の原点に焦点を当てます。類稀な才能を発揮している大作曲家たちの初期作品は、意欲と情熱に溢れています。私たちの持っている巨匠たちのイメージは、これらの初期の傑作を聴くことでより深まり、未知な一面を発見しながら、彼らそれぞれの冒険的な野心を探求します。

J.S.バッハ: ソナタ ニ長調 BWV963

バッハは10歳で孤児になり、オルガニストの兄のもとで音楽の勉強をしながら学校を卒業し、リュートで様々なオルガニストの演奏に触れた後、遂に自らオルガニストとしての職に就くに至ります。ソナタBWV963はそのころ1703~4年(18~19歳)に作曲したとされ、二つのフーガ(3楽章に厳格な口短調のフーガ、最終楽章(5楽章)ににわとりとカッコウの鳴き声をモチーフにしたフーガ)を中心とした盛りだくさんで想像力豊かな作品です。

ベートーヴェン: 選帝侯ソナタ第2番 ヘ短調 WoO47-2

選帝侯ソナタはベートーヴェンが弱冠12~13歳(1782~3年)のときの作品で、ボンにおいてネーフェのもとで勉強していたころに書かれました。若いベートーヴェンの作品は技巧的ですが、ラルゴで始まるこのソナタは、「悲愴」ソナタや後のヘ短調の作品(「熱情」ソナタなど)を連想させるところもあり、彼の抒情性も垣間見せています。

プロコフィエフ: ピアノ・ソナタ第1番 ヘ短調 op.1

ピアニストの母親に毎日ベートーヴェンのソナタを聴かされながら育ち、この大作曲家からの影響を語っているプロコフィエフは、10歳になる前にすでにオペラを書く天才で、ペテルブルク音楽院に最年少の学生として受け入れられました。15歳(1906年)のときにこのソナタの作曲を試み、それは自分の当時の作品群の中でも最高の作品と自称するほどの出来でした。それは数年後に手を加えられ、プロコフィエフ自身により初演されたのち、1911年にソナタ作品1として出版されます。この初期の終わりにあたる作品から迸る感情と若い情熱は、この時代ならではの魅力でいっぱいです。

ブラームス: ピアノ・ソナタ第3番 ヘ短調 op.5

1853年、20歳のブラームスは、尊敬するシューマンとその妻クララを訪れ、その才能は直ちに認められます。シューマンはそれから彼に様々な助言をすると同時に、彼の作品が出版されるよう大きなサポートをします。ブラームスのピアノ・ソナタはすべてこの初期時代に書かれており、その集大成のような「第3番」は5楽章という巨大な構成で、若さに満ちた激しい感情に溢れています。詩的な緩徐楽章を持ち、希望に満ちた快活なフィナーレまでアイディアに富んでいます。一つのシンフォニーを聴くように聴きごたえがある名作です。



小菅 優 (ピアノ) YU KOSUGE, Piano

2005年カーネギーホールで、翌06年にはザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタル・デビュー。ドミトリエフ、デュトワ、小澤らの指揮でBBC響やNDRエルブフィルなどと共演。10年ザルツブルク音楽祭でポゴレリッチの代役として出演。その後も世界的な活躍を続ける。現在は様々なベートーヴェンのピアノ付き作品を徐々に取り上げる新企画「ベートーヴェン語」に取り組む。14年に第64回芸術選奨音楽部門 文部科学大臣新人賞、17年に第48回サントリー音楽賞受賞。録音は、ソニーから発売している『ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ全集』をはじめ数多い。2017年から4年にわたり、4つの元素「水・火・風・大地」をテーマにしたリサイタル・シリーズ『Four Elements』を開催し好評を博した。

小菅優のために書かれた藤倉大「インパルス」の超絶技巧
ラヴェル最晩年のかげやきを刻んだ「ト長調の協奏曲」の洒脱



小菅 優

(好評
発売中)

藤倉大: ピアノ協奏曲第3番「インパルス」
/WHIM

ラヴェル: ピアノ協奏曲ト長調

〔演奏〕 小菅 優(ピアノ)、ライアン・ウィグルスワース指揮 BBC交響楽団
〔録音〕 2021年11月 ロンドン(セッション録音)

定価 ¥3,300 (税抜価格 ¥3,000)
ハイブリッド・ディスク ● SICX10016
(Multi-5ch) STEREO / Multi-ch

HiRes Audio DSD2.8 & 192kHz/24bit
ハイレゾ同時配信

ソニー・ミュージックからはひさしぶりのソロ・リリースとなるピアニスト、小菅優の協奏曲アルバムです。小菅の協奏曲録音はおおよそ10年ぶり。藤倉大のピアノ協奏曲第3番「インパルス」は、モンテカルロ・フィル、読売日本交響楽団とスイス・ロマンド管弦楽団の共同委嘱作品で、小菅優に献呈されました。3つのオーケストラの初演全てにおいて小菅優はソロを務め、大きな話題となったものです。同じ藤倉大の「WHIM」は、「インパルス」の日本初演時のリハーサル中に、藤倉大と指揮者の山田和樹に「カデンツァを聞いてほしい」と言って小菅優が弾いてみせたことから藤倉が思いつき、カデンツァパートだけをソロ・ピアノ作品として独立して出版することにしたというユニークな出自を持つ小品。カップリングとなるラヴェルの名作「ピアノ協奏曲ト長調」とともにバックを務めるのはイギリスの俊英ライアン・ウィグルスワース指揮する名門BBC交響楽団。2021年に行われた最新セッション録音です。

Sony Music Japan
International



ご来場の皆様に安心してお聴きいただくため、当公演では新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防、拡散防止に細心の注意を払い、様々な対応策を講じた上で公演を実施いたします。

- お車でのご越しのお客様は東京オペラシティビル 駐車場料金の1時間割引制度をご利用頂けます。
- やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、曲目変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承願います。
- 団体料金の設定のある公演もございます。詳しくはお問合せください。
- 未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

KAJIMOTO

〒104-0061 東京都中央区銀座6-4-1
東海道銀座ビル5階
<http://www.kajimotomusic.com/>

YouTube “kajimotomusic” で検索!

@kajimoto_News

@kajimotomusic